

真言

発行 宗教法人真言宗豊山派

医王山興福寺大楽院

名誉住職 酒主明寛
住職 酒主秀寛

3月11日発生の東日本大震災及び原子力災害により、避難を余儀なくされ、悔しい、そして不自由な生活を送っているなか、月日のたつのは早いもの、いつの間にか秋が忍び寄り、紅葉の季節ももうすぐです。私たち日本人には切っても切れない春の桜、秋の菊も何か遠いところの存在になってしまったような感じがします。

大楽院とお檀家さんを繋ぐ機関紙「真言」の発行が大幅に遅れましたこと誠に申し訳ございません。

そんな中でも8月6日には群馬県実相寺において大施餓鬼会を執行了しました。場所が変わりましたが、当山の最重要な年中行事を行うことができました。これもひとえに実相寺様、新盆のお檀家さん、役員をはじめとしたお檀家さんのおかげと感謝しております。

また、総代会については移動総代会として、いわき市・郡山市等で会議を行っております。今後も不定期とはなりますが機関紙を発行してまいりますのでよろしくお願いいたします。

合掌

8月11日付 中外日報に掲載

避難者ら新盆供養

福島・豊山派大楽院の檀家60人

群馬の実相寺へ

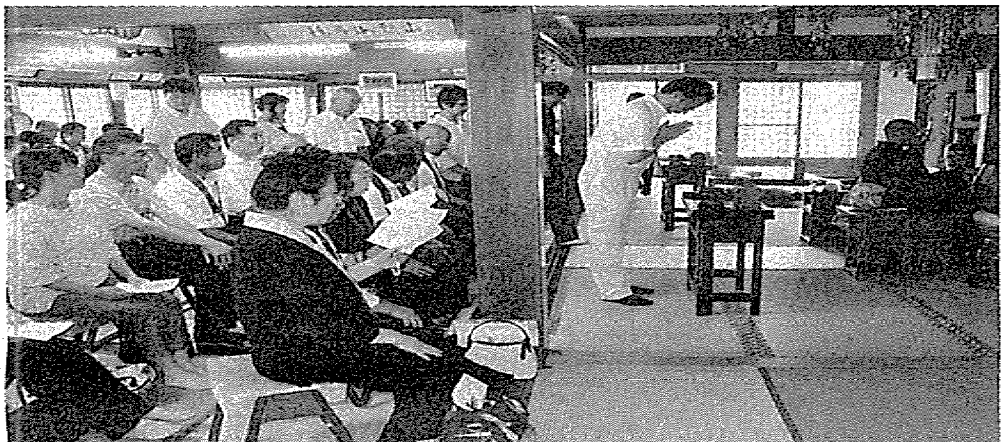
死んでもお墓に入れず家にも帰れない

被害状況
本堂は、外壁が一部落ちた程度でほとんど被害はありませんでした。護摩堂は被害なし、書院・庫裏は瓦の一部崩落。墓地については一部倒壊、一部ずれ等の損害がでています。

福島第1原発事故で避難中の真言宗豊山派大楽院（福島県楢葉町）の檀家約60人が6日、群馬県板倉町の同派実相寺に集まり、新盆供養・施餓鬼会を営んだ。現在も避難生活をする酒主明寛・大楽院名誉住職が導師を勤めて至心に読経、先祖や震災犠牲者など一切の諸霊を弔った。

大楽院は原発から約16キロにあり、震災後、酒主名誉住職は実弟である青木教寛氏が住職をする実相寺に身を寄せた。現在は隣の館林市内で避難生活を送る。今年春には住職を息子の秀寛氏に譲

福島の被災者ら約60人が、群馬県板倉町の実相寺で新盆供養を行った。酒主明寛（左）が導師を務める。背景には、福島県楢葉町の被災者らが避難している様子が見える。



実相寺本堂で営まれた新盆供養で、焼香して先祖を供養する参列者ら

というか、憎いというか、残念という表現のしようがない。皆さんで

「先祖様を供養しよう」とあいさつした。法要では酒主名誉住職

が一時帰宅の際に持ち出した歴代住職や三昇万霊の位牌を掲げて法要を執り行った。参列者にはコピーで手作りされた経本を配った。新盆を迎えた故人の戒名が次々に読み上げられた後、「追善供養和讃」が本堂に響くと、参加者は焼香・合掌して菩提を弔った。

また、避難中は墓参りができず、塔婆も立てられないことから、小さな餓鬼旗に戒名を書いて手渡し、盆の期間中に供養するように勧めた。

いわき市に避難中の親族の一人は「供養できて良かった。ばあちゃん喜んでくれているだろう。死んだ人も大変だけど、今は生きている人も大変だから」と語った。

歳の女性を亡くした親族らも法要に参列。女性らは原発事故の後、親戚の家や病院、施設など5回の移転を余儀なくされて病状が悪化。親族らは「お母さんはどこへ行って



医王山興福寺大楽院

代表役員

責任役員

総代

代表世話人

世話人
同 渡部 千秋
同 根本 正勝
同 渡辺 甫
同 新妻 孝
同 吉田 紀夫
同 猪狩 芳樹
同 樋口 陽興
同 菅原 泰郎
同 新妻 則彦
同 渡辺 幸生
同 猪狩 雄男
同 猪狩 義栄
同 小松 信夫
同 関谷 宗久
同 猪狩 一信
同 草野 和治
同 猪狩 三男
同 久保田 明
同 渡辺 良平
同 松本 公一
信徒総代

役員一覧

酒主 秀寛

草野 孝

芦口 一美

久保田 幸夫

高野 孝明

渡辺 勝康

渡辺 芳男

箱崎 豊

小松 イク

片山 一吉

松永 光久

会沢 節夫

猪狩 正久

草野 公雄

新妻 久彌

橋本 明

草野 仁

草野 武夫

小松 岳生

草野 久

小野 治久

鈴木 恒男

高野 繁男

渡部 千秋

根本 正勝

渡辺 甫

新妻 孝

吉田 紀夫

猪狩 芳樹

樋口 陽興

菅原 泰郎

新妻 則彦

渡辺 幸生

猪狩 雄男

猪狩 義栄

小松 信夫

関谷 宗久

猪狩 一信

草野 和治

猪狩 三男

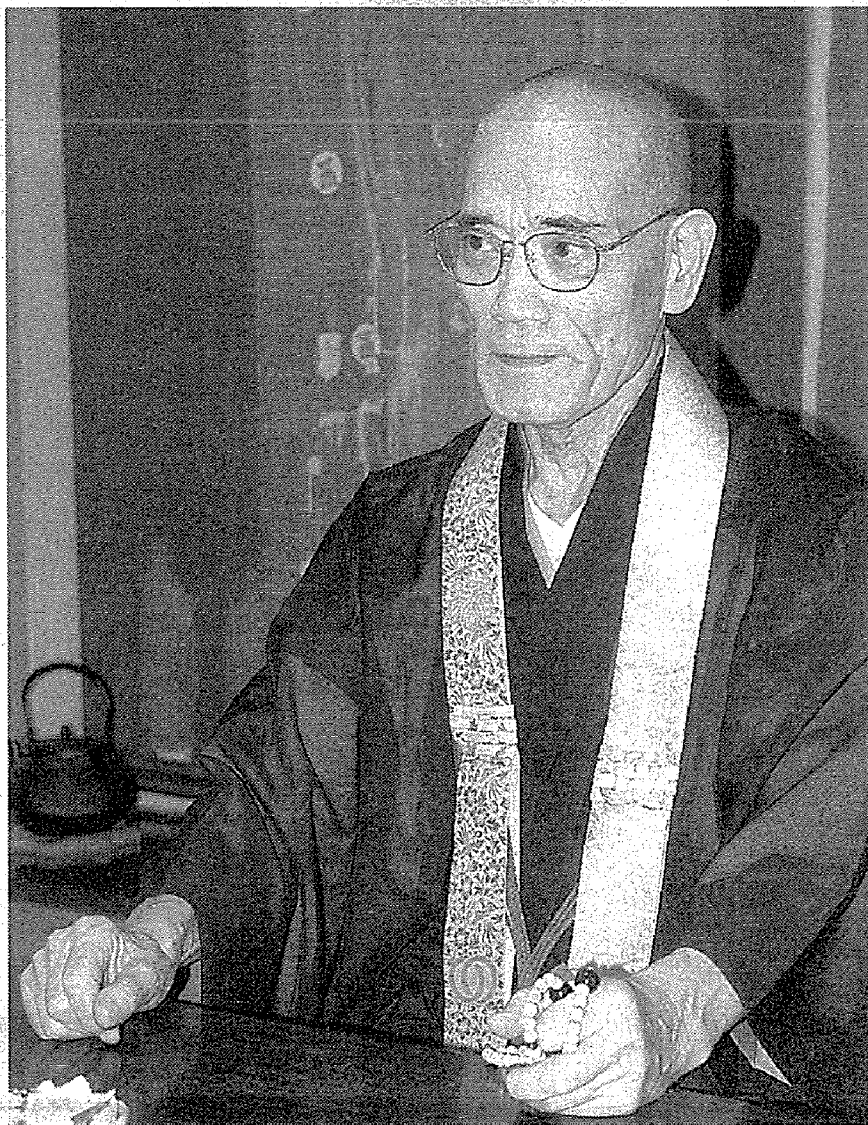
久保田 明

渡辺 良平

松本 公一

東日本大震災からきょうで半年

強い心で一歩でも前へ



「強い心を持って1歩でも2歩でも前へ」と話す酒主さん

東日本大震災からきょう11日で半年。被災地は大津波の爪痕が今も色濃く残り、福島第1原発事故の収束も不透明なままだ。福島県楢葉町から館林市内に避難している大楽院名譽住職、酒主明寛さん（74）に「3・11の体験」や被災者の現況などを聞いた。

福島・楢葉町から避難

大楽院 酒主さんに聞く

震災時の様子から。

南北に大きく、しかも長い時間にわたる、体験したことのない地震だった。30分くらいしたら津波。大楽院は海岸まで2キロほどのや高い所にあり、5000坪手前まで津波が襲って来た。海岸に近い家は全てのみ込まれ、大きな屋根が沈むように流されていくのを

目の当たりにした。着の身に着のまま町の福祉会館に避難し、夜の食事は卵大のおにぎり1個だった。

追いつけなかったのが福島第1原発事故。寺は福島第1原発から南に16キロあまり、第2原発からは4キロほどの所にある。

翌日、帰ろうと思っていた矢先に原発事故が分かり、

帰宅見通し立たず

19日に板倉・清浄院

避難者対象に彼岸供養

「もつと遠くまで逃げろ」の指示。いわき市の中学校体育館で雑魚寝して過ごした。

寺はどんな状況か。

仏像や燭台、香炉など軒並み倒れた中、本尊は倒れなかった。本尊にはそうした力もあるのかと、今でも不思議に思っている。本堂前の灯籠は2基とも崩れ、水田地蔵も数体倒れた。墓石の倒壊は他地域の寺院に比べると少なく済んだ。

楢葉町はほとんどが警戒区域。一時帰宅は、7千人を超す住民はいわき市と会津美里町を中心に避難しており、私の家族も会津美里と北茨城、館林の3カ所に分散している状況



東日本大震災で倒れた大楽院の灯籠（3月11日、震災直後に撮影）

だ。6月には宗教法人として許可をもらって2時間ほど家に戻り、仏像一つと全ての檀家が入った位牌、衣など、必要最小限の物を持ち帰った。楢葉町の放射線量は比較的少ないものの、帰れる訳ではない。2、3年とかの区切りがあるならまだしも、見通しが全く立たないのが最大の課題。みんな困っている。

立ち入り禁止状態では、寺も機能しない。寺は800年を超す歴史があり、檀家は400軒以上。移転なんて考えられない。檀家に不幸があれば、いわき市や会津美里町にも車を走らせている。ただ、実弟が住職を務める板倉町の実相寺に、遺骨7体を預かってもらっているのも現実だ。8月6日には、いわき市や埼玉県内などに避難

している檀家や六十数人が集まり、実相寺で新盆供養を行った。

震災後、「絆」など叫ばれているが、地域の「コミュニティ」を失った被災者も多い。

一歩でも2歩でも前に進んで行けるよう、強い心を持ってもらいたい。追い詰められ自ら命を絶つ人がいるが、悩みを一人で抱え込まないで、誰かに相談してほしい。力になろうと活動している団体が数多くあるし、寺院でも神社でもいい。人と話すことが大事だ。

東日本大震災や福島第1原発事故で避難している人々を対象に19日午後1時半から、板倉町大高嶋の清浄院で「御先祖の彼岸供養法要」が営まれ、法話、法要のほか、激励会やバーベキューなどを行う。

酒主さんも被災者として、また副導師として参加予定。「宗派を問わず、ご家族皆さまで」と参加を呼び掛けている。

真言宗豊山派医王山興福寺大楽院

法務等のご相談は、下記までお願いいたします。合掌

酒主明寛 〒374-0039 群馬県館林市美園町23-7

篠原住宅A-1

電話 090-1495-7957

酒主秀寛 〒969-6195 福島県大沼郡会津美里町字北川原41

電話 090-3753-3634

ホームページ <http://dairakuin.net>e-mail info@dairakuin.net

郵便振替 02220-2-92530 宗教法人大楽院

現在、大楽院がお借りして、法要、供養等を行っている寺院は下記のとおりです。

真言宗豊山派 実相寺 住職 青木教寛

〒374-0132 群馬県邑楽郡板倉町板倉甲1678

電話 0276-82-0560

※東北自動車道館林ICより東へ約5分

震災後、多くの方々よりお電話をいただきました。直接お電話をいただいた方、町の災害対策本部を通じて電話をかけてきた方等さまざまでした。今年のお施餓鬼はどうなっているのか、お盆の墓参りはできないのかといった内容がほとんどでした。また、避難先では心のよりどころがないため、「般若心経」の経本を送ってほしいという方もありました。残念ながら、お彼岸・お盆ともお墓参りすらできず、わずかに2時間の一時帰宅を許されたのみでした。国では除染等を行い、住民の安全が確認されたら警戒区域を解除することですが、いつになることか現在は見通しがたっておりません。我々のご先祖が眠るお墓もそのままになっております。私は、一時帰宅が許されたわずかな時間を使い、本堂で読経を行い、また墓地に線香をたむけ懇ろにご供養をして参りました。付属墓地の現況確認も行っております。状況を確認されたい方はご一報ください。まだまだ避難生活は続くと思われまます。気持ちを強く持つてこの困難を乗り越えましょう。そして一日も早くご先祖様へ「ただいま」と言える状況になることを祈るばかりです。（秀寛）